

# 昭和学報

昭和女子大学

〒154-8533 東京都世田谷区太子堂  
03(3411)5118  
編集発行人 鈴木 円

## 食べることは、生きること

食安全マネジメント学科長 曾田 功

皆様は、日々の食事で使う食材を買われる時、どのような店で買われるのでしょうか？

地元の八百屋さん、スーパー、大型のショッピングモール、駅前商店街あるいはデパートでしょうか？ 自分が食べたい、あるいは栄養面等を考えて、食べたほうが良いと思うものを買われるのでしょうか。この世には様々な食材がありますが、美味しく、見た目もきれいで、栄養素も十分かつ残留農薬や食品添加物、賞味期限、消費期限、産地、ブランド等々、安全や品質にも配慮しながら選ばれる方も多いことと思います。

私は、高校生の頃、栄養にはほとんど関心を持たず、というより、栄養という概念さえ持ち合わせていませんでした。腹が減ったらまずは、身近にあるものを食べるという生活をしていました。部活で体を思い切り動かしてへとへと、腹ペコ状態で、仲間と帰宅途中の駅前商店に立ち寄り、お

店の優しいおばちゃんや世間話をしながら、パンやジュースや菓子を食べていました。若いうちは新陳代謝が旺盛なので、食べることにしても多少の無理は効いたよう

で、特に体の状態が悪くなったりということはありませんでした。ただ家に帰ると疲れ果ててそのま

ま寝てしまうということが続いたため、歯は虫歯だらけになり、後々この面では大変苦労することになりました。人生一〇〇年代と言われ始めた中、若いうちからまめに



旬のフルーツは、美味しく栄養もたっぷり。これは何というフルーツでしょう？  
答えは、温州(うんしゅう)みかんのような食べ物を食べ

- 今月の昭和学報は
- 歴史文化学科が協定校ハノイ国家大学とベトナムの島を発掘……………(2)
  - 学報委員会
  - 国際交流会「お雑煮ランチ会」を開催……………(3)
  - 教職員に聴く「積極的に留学に挑戦しよう」……………(4)

るかによって細胞の働き具合に違いが出てくること予想されます。さらには、人生は長い道のりですので、日々の食の習慣が我々の健康に大きな影響を及ぼすことは想像に難くありません。

平成元年、第二代理理事長の人見楠郎先生の時代に縁あって、この昭和女子大学に勤務するようになり、当時短大に栄養士養成課程として存在した食物科学科で生化学を担当しながら、栄養の専門家であり実務家でもある先輩方や同僚、助手の方々から折に触れ、直接的、間接的に栄養の何たるかを教えていただき、食や生活習慣が健康状態、ひいてはその人の人生の豊かさにか

に密接に関係しているの

に密接に関係しているのかを身に染みて学ぶことができました。この実感により、冒頭で述べた今日の食事を、どのような食材で組み立てるか、そこに作るのに要する時間、食べる時間帯、経済、栄養、嗜好、体調、直近の食事等々、様々な要素を考え併せながら、より良い形にすべく楽しみ、時には苦しむことは、まさに生きることに

他ならないのだと考える

ようになりまし

昨年開始した食安全マネジメント学科は、食にかかわるサイエンスとマネジメントをバランスよく学び、食品が生まれてから私たち消費者に届くまでの過程で力を発揮できる人材を育成して

います。また、消費者の動向を把握して商品の企画や開発を行ったり、営業や販売等を行うビジネス力を育成する実践的な学びの場でもあります。スタートから一年、二期目の学生をやがて迎えます。そうした学生の皆さんの羽ばたきを今から楽しみにしています。

本学科の学生の皆さんを含め、人それぞれ食を取り巻く環境は様々ではあります。長い人生を豊かにするべく、より多くの方が、できれば周囲の方々も巻き込みながら、食を楽しみつつより良い健康を享受する工夫をすることができればと願う次第です。

(そだ いさお)

## 地域連携センター×世田谷美術館 Setabi Cafe 新企画スタート

今年で二年目となる「美術館カフェ・プロジェクト」プロジェクトでは、一月一三日から四月一日まで世田谷美術館で開催される「パリジェンヌ展」と連動した企画展「パリジェンヌ展」を開催する。

本展覧会のテーマは、一八世紀から二〇世紀にパリに生きた多様な女性たちである。私たちは、パリジェンヌたちを五感で感じられるカフェにするよう、展示内容に因んだネーミングのメニュー等を企画している。その準備として夏季休暇中、国内外計二五カ所の



美術館やカフェに足を運び、プロデュースの具体的なアプローチ方法を検討してきた。一月一五・一六日には世田谷線三軒茶屋駅前の八角堂で広報活動も行う。これまでの活動は大学WEBサイトのSILABOに掲載しているの

でぜひ閲覧していただきたい。今後も順次更新する予定である。

皆さんもリニューアルした世田谷美術館とSetabi Cafeを訪れ、その時代を映す女性たちの姿から女性の生き方を考えるひとときにしていただきたい。

(日文 岡田優花)

## 歴文 中島さん、初教 梅戸さん バトントワリングで世界大会出場

私達は昨年八月六日、一三日にクロアチア共和国で開催されたバトントワリング第九回インターナショナルカップにグループ種目で出場し、第三位という成績を収めることができました。大会は、一九カ国から約千人の選手が参加し、個人と団体種目に分かれて競われる。日本代表として約二〇〇名が参加し、これまでの最多出場となった。

私達が出場したアーティスティックグループは、日本初参加ということもあり、各方面から大きな期待が寄せら



日本代表ユニフォームを着た梅戸さん(右)と中島さん(左)

れていた。そのため演技前は大変緊張していたが、日本大会とは異なる観客からの大声援に負けない演技をしようと考えたことで、かえって楽しんで踊ることができた。グループ一人は一つの目標のもと、大会直前まで充実した練習を重ねてきた。

世界大会を、信じ合える素晴らしい仲間と共に参加できたことは大変幸せであった。夢だった世界の舞台で、堂々と演技できたことは、自信につながった。既に次の大会が迫っている。一層の努力を続けていきたい。

(歴文 中島香歩・初教 梅戸香織)

な期待が寄せら

### 歴史化学科が協定校ハノイ国家大学とベトナムの島を発掘

ベトナムの世界遺産ホイアンは海のシルクロードの港市として、古くから各国商船が寄港した。このホイアンの海上にクイラオチャムという島がある。九世紀頃のアラブ商人の記録に登場し、



発掘に参加した教員と学生 (クイラオチャム島で)



発掘の様子

真水がえられる島という。そのため、南シナ海を往来する各国商船が投錨したのである。一六〇七年には三浦按針こと、ウイリアム・アダムスが来島している。今夏、この島の歴史を

トレンチから九世紀前後のイスラーム陶器やガラス片などが出土した。アラブ商人の記録を裏付ける資料であり、海のシルクロードの要衝であることを再確認した。調査中、ベトナムのテレビ局の密着取材をうけた。特別番組を作るためという。調査は次年度も継続する予定である。(歴史 教授 菊池誠一)

### 先生の研究室訪問 新たな視点で

ビジネスデザイン学科教授 前田純弘先生



前田純弘先生の研究室にお邪魔すると、すぐにサイレントチェロが目に入った。そこで、ご趣味を伺うと、音楽と即答された。中学まではピアノ、高校の部活でチェロと出会い、中断しつつもチェロ歴は四〇年以上とか。現

在はアマチュアオーケストラで日々腕を磨いておられる。

前田先生は大学を卒業後、新聞社で経済関係を担当され、その後本学に着任された。授業では、実務経験を活かしたメディア論を展開。ゼミでは、スマートフォンを使った情報行動調査を行っている。

教員への転身の理由をお聞きすると、もともと五〇歳で退職し、人生の転換期にしようと考えていたそうだ。ちょうど退職が決まった頃に、縁

### 学内探検 研究支援機器センター

今回の学内探検では、七号館四階にある研究支援機器センターを取材させて頂いた。昭和之泉に臨む七号館には、一階に光葉博物館があり、歴史化学科の学生が主に使用している。研究支援機器セン



研究支援機器センター管理機器一覧

- 透過型電子顕微鏡
- 走査型電子顕微鏡
- 液体窒素サーバー
- X線回析装置
- 携帯型蛍光X線分析計
- 超高感度示差走査熱量計
- 高感度型示差走査熱量計
- ウルトラマイクロ天秤
- 分離用超遠心機
- フーリエ変換赤外分光光度計
- 共焦点レーザー走査型顕微鏡
- 電子スピン共鳴装置
- ガスクロマトグラフ質量分析計
- 液体クロマトグラフ質量分析計

ターには、その名の通り研究を支援する分析機器一四台が設置され、卒業執筆等の目的で学生が使用することもできる。また、大学や附属校の授業で使用することもあるそうだ。研究支援機器センターには、専任の伊藤美香先生がおられ、機器使用や分析手法

の相談にのってくださる。この取材でも、大変分かりやすく、丁寧な説明をしてくださった。同センターは、学内の分析機器を一元管理することで研究者の利便性を高める、まさに「研究支援」の場である。細かなメンテナンスも、一括管理され、利用者に使い勝手の良い施設となっている。

伊藤先生によれば、理学系の学部学科のない大学としては、多くの機器が揃えられている。分析機器は、四階の四部屋と、地下の一部屋に設置され、設置に苦労したのではないかと思うような、大型のX線回析装置もあった。

地下一階にある電子顕微鏡は、私たちがよく知る光学顕微鏡とは異なり、真空空間で電子線を利用して像を得るもので、一般的な顕微鏡では千倍程度の倍率で観察できるが、この顕微鏡では六〇万倍に拡大可能だ。ただし、観察する試料を極めて小さく作る必要がある。試料作製の機器もあるが、人の手が不可欠で、試料作りに何日もかかることがあるそうだ。極めて精密な科学分析にも、やはり手作業が必要というのが、面白かった。こうした試料作製や

熱分析機器使用の際に液体窒素が必要で、東京都の認可のもと液体窒素サーバーが設置されている。液体窒素の沸点はマイナス一九六度で、常温では常に気化している。バラなどを入れると瞬時に凍り、バラバラになってしまうので、そうした組織の磨砕に使われることもあるとのこと。

学内のこうした素晴らしい設備を知らない学生も多いと思う。分析機器は、文化財の保存修復等の文系分野でも活用される。卒論等であれば学生も使用可能とのことなので、是非活用していただきたい。(学報委員会 鴻池実香・町田菜々花・吉村知華)

### ものをつくらないデザインワークショップ “これからの社会、学び、私” を開催

環境デザイン学科石井研究室では昨年度からデザイン思考型の生涯学習プログラムの開発を行っている。本年度は一月一七日に学生を対象に「ものをつくらないデザインワークショップ」を通して、デザイン

の相談にのってくださったのの通り研究を支援する分析機器一四台が設置され、卒業執筆等の目的で学生が使用することもできる。また、大学や附属校の授業で使用することもあるそうだ。研究支援機器センターには、専任の伊藤美香先生がおられ、機器使用や分析手法

の相談にのってくださったのの通り研究を支援する分析機器一四台が設置され、卒業執筆等の目的で学生が使用することもできる。また、大学や附属校の授業で使用することもあるそうだ。研究支援機器センターには、専任の伊藤美香先生がおられ、機器使用や分析手法



から問題の背景を知り、課題を発見する手法を学んだ。その後のグループワークでは、学生にとって身近なテーマである「就職活動」について、デザイン思考のメソッドを用いた対話を行った。自分の感性や思考を言語化し、他者の価値観や経験に触れることで、様々な社会課題や身の回りの現象の捉え方に変化が起きていくように感じた。今後は学生対象のワークショップだけでなく、地域の働く女性や母親に向けた学びの場を設計し、実施することで、本学において創造的な学びを多くの人と描いていきたい。(環境 佃 怜南)



### ボストン・世田谷で「女川灯紙」を開催

毎年ENVOがワークショップで訪れる東日本大地震の被災地、宮城県女川町の復興支援の一環として学内で実施している「女川灯紙」を開催した。三回目となる今年は、一月四日から一四日まで、



初等部児童のワークショップ

での約二週間、昭ルームで開催した。長期



ボストンキャンパスのジャパニーズガーデンにて

間実施するのは初めての試みであり、六日と一三日には、留学生や初等部児童と共にランタン作りワークショップも行った。また、七日と八日には子ども園で園児とランタン作りをした。期間中は女

川町から送っていただいたランタンと学生、留学生、児童、園児が作ったランタンを並べて灯をともし、被災地の復興を願った。初めての試みで、ランタンの配置やボラティアの確保等で苦労したことも多かったが、ENVOのメンバー全員からの協力により開催にこぎつけた。

そして今回は、震災や女川町のことを知ってもらうことを目的に、ボストンキャンパスでも一月三日にランタンイベントを開催することができた。大勢の人がイベントでつながったことで、復興の在り方を伝えるきっかけとなった。(ENVO 永島彩香)

### シワルツ昭和ボストン学長・アビュウザ先生に聴く 積極的に留学に挑戦しよう



シワルツ昭和ボストン学長・アビュウザ先生に聴く



一月八日、来日された昭和ボストンのシワルツ学長とアビュウザ先生が学報委員のインタビューに応じて、留学に関する経験のある先輩に話を聞いた。事前に理解を深めることができる。留学先ではオープンマインドであることが大切で、留学中に日本人同士で固まっている学生がいるのは残念だと続けられた。アビュウザ先生も、

### 現代ビジネス研究所インバウンドビジネス研究プロジェクト 秋桜祭でシンポジウムを開催

私が参加する現代ビジネス研究所のインバウンドビジネス研究プロジェクトは、秋桜祭二日目の一月二日、「インバウンドビジネスの課題と展望」をテーマにシンポジウムを開催した。約百



名の方が来場し、大反響の中終えることができた。二〇二〇年の東京オリンピック開催が決まり、国を挙げてインバウンドに力を注ぎ始めている。今年の訪日外国人数は過去最高だった昨年の二四〇



四万人を既に超え、二〇二〇年には四千万人、二〇三〇年には六千万人という目標もある。成長が著しい分野だからこそ、学ぶ価値も大きい。今回の活動を通してプロジェクトマネジメントの進め方やチーム内で目標やビジョンを共有することの大切さを学ぶことができた。新しいことに挑戦するのは苦勞を伴うが、乗り越えた時の達成感は大い。私は四月から人材会社に就職する。このシンポジウムで得たことを糧に、常に挑戦し続けた。

(ビジネス 藤野真理)

日本女性は可愛らしく大人しいことを良しとする風潮が未だにあるが、そうした意識を捨て、一歩踏み出して意見を述べたり、行動することが大切だ、受け身ではなく、知らないことや反対意見も、恐れず質問し意見を述べられるような女性になってほしいと話された。さらにシワルツ学長は、「しかし「Study abroad should be fun」(留学は楽しくあるべき)」と続けられた。シワルツ学長は英国や日本への留学経験をおもちで、母国とは異なる社会や文化に触れることは非常に面白いと目を輝かせた。そうした体験が、自分や自国への理解にもつながる。そして、自分の考えや視野を広げるためには、広く学ぶ必要がある。同じことばかりを勉強しても、教養は身につかないと、シワルツ学長は続けられた。

### 行事予定

- 1月 5日(金) ボストン成人式セレモニー
- 1月 6日(土) 授業開始、図書館開館
- 1月 9日(火) 「卒業論文」提出日(10:00~16:00)※  
※提出日時が異なる場合があるので、学科の指示に従うこと
- 1月10日(水) 第4回学友会クラス学生総会(15:30)
- 1月11日(木) 大学院修士論文提出日(14:00~16:00)  
第90回メンターフェア(12:00)
- 1月12日(金) 大学入試センター試験準備 4限以降休講
- 1月13日(土) 大学入試センター試験(1日休講・学内入構不可)
- 1月14日(日) 大学入試センター試験(学内入構不可)
- 1月15日(月) 大学院2月期入学試験 願書受付開始(～29日)
- 1月17日(水) 第91回メンターフェア(15:00)
- 1月19日(金) 学内合同企業説明会(H30年3月卒業予定者対象)(12:30)
- 1月20日(土) 外国人留学生入学試験(一般、日本語学校指定校)  
第55回メンターカフェ「公務員として働く」(13:30)
- 1月21日(日) 図書館特別開館(9:00~16:00)
- 1月22日(月) 図書館試験貸出開始(～2/5)
- 1月27日(土) A日程試験準備(13:00)(入試で使用する建物への立入禁止)
- 1月28日(日) A日程試験(入試で使用する建物への入館不可)

### choco-talk キャリア支援センターを活用しよう!

多くの大学生がいずれは行う就職活動。「まずは何から始めればいいのか?」そんな不安や疑問を抱いたら、キャリア支援センターが行っているサポートのひとつ、個人面談を利用してはどうだろうか。これは予約をすれば、誰でも利用することができるサポートだ。記事を書くにあたり、私も予約をして個人面談を体験してみることにした。予約時間の少し前に、1号館の中央にある円形ホール2階のキャリア支援センターに到着。待っていると、担当して下さるキャリアカウンセラーの方に声をかけられた。そしてキャリア支援センターの奥にある個室に通され、50分間の面談が始まった。申し込み時に記入した相談内容を元に面談は進められ、経験豊富なカウンセラーの方が丁寧且つ的確に答えてくださった。面談で新しい情報を得ると同時に、不安や疑問が少しずつ取り除かれ、自分が今後すべきことが明確になった。今後も定期的に個人面談を利用することで、就職活動をスムーズに進めていきたいと考えている。就職活動のスタートに乗り遅れないためにも、解禁前に個人面談を利用することを私はオススメしたい。(学報委員 渡邊まりや)